

# 千歯会便り

# 166号

2014.12.20 発行



今年もいよいよ残りわずか、何かと気ぜわしいこの頃となりました。  
例年同様、インフルエンザなど季節の病気が猛威を振るい出す時期でもあります。  
手洗い、うがい、マスク着用など、ご自衛されて良いお年をお迎え下さい。

## 「ライフサイクルを考慮した歯科治療」

### 第一回

おゆみ野総合歯科クリニック  
岩手医科大学臨床教授

伊藤 創造

今回から3回に渡って「ライフサイクルを考慮した歯科治療」というテーマで皆さんに知っておいてほしいお口の健康に関わる情報を発信したいと思います。

人が一生の間、健康で機能的な歯、歯列、咬み合わせを保って、食べること、話すこと、口元の美しさと笑顔を手に入れることができれば素晴らしいことです。虫歯、歯周病にならないようにする方法もある程度確立されています。だからこそ最高の歯科治療は、健康な天然歯を守ることです。

しかし、残念なことに防ぐことが出来る病気にも関わらず多くの方がどこかの時点で健康を損ない、歯とかみ合わせが壊れてしまうのが現状です。その場合、我々歯科医は患者さんの笑顔のために、最良と考えられる治療方法でかみ合わせの回復と

その後、長期において食事が出るようにメンテナンスをしています。歯とかみ合わせが壊れてしまうことをそのときだけのことと考えるのではなく、人の一生すなわちライフサイクルの中で考えて対応しています。ライフサイクルを中心に治療方針を考え、その場限りの治療ではなく、歯とかみ合わせが長期的に安定するように努力をするとともに最新の歯科治療を提供しています。

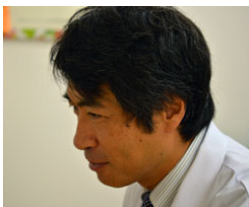
しかしインプラントを含めてどんなに優れた治療方法であっても健康な歯、健康な歯列には文字通り歯が立たないのです。人工装置は、あくまで人工装置で、健康な歯が再生してくるのではないのです。健康な天然歯を守っていくことに最大の努力をして、がんばったけどしかたなく病気になってしまった歯に、患者さんに満足してもらえない最高の治療を提供するという立場で歯科治療を

行いたいと考えています。

私自身、厚生労働省・科学研究費のサポートを受けて「歯と咬合の長期的な維持管理に関する検討」と題する研究をさせていただき論文を発表してもらいました。その中でライフサイクルを軸に、科学的根拠による歯と咬み合わせが長期的に良い状態を保つためのポイント、そして良い状態を保つのを邪魔してしまうポイントを検討することがあります。皆さんがお口の健康を長期間保っていたり、何をしたら良いのかのヒントがここにありますので、次々回にご紹介したいと思います。

## プロフィール

伊藤 創造  
いとう そうぞう



1984年  
岩手医科大学 歯学部 歯学科 卒業  
博士(歯学)の学位を取得(岩手医科大学)  
1990年～  
岩手医科大学歯学部 第二補綴科医局長、外来医長、  
非常勤講師  
2014年  
岩手医科大学歯学部 臨床教授  
2014年6月4日  
おゆみ野インプラントセンター開設 所長就任

十月 まで院長を務めた河内先生の送別会を行いました。三年半一緒に働いた先生へ「ありがとう」のメッセージを込めさせてもらいました(^\_^)新潟でも頑張ってくださいです♪十一月より院長は高野先生になりました。また、口腔外科専門の大金先生の診察日が毎月第三、第五金曜日になりました。気になることがある方は是非ご相談下さい。(江本)



**片貝デンタルクリニック**



山武郡九十九里町片貝  
2380  
TEL 0475-70-7171  
FAX 0475-76-4888  
  
訪問診療部  
TEL 0475-76-8201  
FAX 0475-71-3472

頼れる 仲間が戻ってきました！今年の十月二十日からおよそ一年間産休をとっていたデンタルプランナーの阿井が戻ってまいりました。カウンセリング・アシスタント・受付・キッズ担当と、なんでもできるスタッフです。よろしくお願いたします。(伊藤誠)



月曜日の午前中はキッズスペースにて、保護者が治療中、お子さんの様子を見ています。よろしかったらご利用下さい。お待ちしております。(阿井)



**大綱歯科医院**

大綱白里市みやこ野  
2-2-1  
TEL 0475-72-6480  
FAX 0475-72-8059

**千歯会 事業所便り**

十月 二十六日、日曜日ワナーホームさんの「みんなのまつり」にご招待頂きました。野外ステージでは様々な発表やダンスが行われ、屋台のカレーと唐揚げ、きのこ汁を頂きました。室内では展示やご利用者の方々の作品販売、協賛店もあり。私たちもモザイク画に参加させて頂きました。利用者の方々と楽しいひとときを過ごしました。(酒井)



**大綱歯科医院 訪問診療部**

TEL 0475-73-6480  
FAX 0475-53-6982

当医院 ではデンタルプランナーを導入することで気軽に口口の相談が出来るようになりました。すでに様々なご相談を承っており、ご好評頂いております。ご希望の方は受付にお申し出下さい。ホームページでもご案内しております。追伸：先生を囲みスタッフ一同でボーリングに行ってきました。大橋院長の意外な一面が……(八重樫)



**おゆみ野 総合歯科クリニック**

緑区おゆみ野 4-3-9  
TEL 043-300-3939  
FAX 043-300-3940

# 〈千歯会カルチャー〉

## 口腔健康管理

## 健康増進と病氣予防を目指して

私達「千歯会」では、東京歯科大学を始め東京医科歯科大学（国立）・東北大学歯学部（国立）岩手医大歯学部（公立）他、研修生も加えていろいろな出身の先生方が働いています。特に今年は、岩手医大臨床教授の歯学博士、伊藤先生にも参画して頂きました。

当然の事ながら、日進月歩の世の中で今後の「千歯会」の使命は、医

師集団の知識と技術の向上充実こそが主題と考え、切磋琢磨の一助にもとして、各人の持つ識見と得意とする専門を広く交換し合いたく、以後は交代でこの紙面を分担することといたしました。

今回は手始めに、日頃からお世話になってきた旭中央病院の歯科口腔外科部長・秋葉正一先生のお話を引用させて頂きました。

## 口腔ケア — 細菌と唾液について

### 一、口腔細菌

口腔細菌は五百種から七百種もいる。寝ている間は口を動かさないで、睡眠後三時間もすると爆発的に増殖する。約八時間後に飽和状態に達する。寝起き後の口臭はそのためのものと考えて良い。

その細菌の数には個人差がある。よく歯を磨いた口腔内の細菌は百億

以下、あまり磨かず掃除の悪い歯は

千億程度、病氣や清掃の出来ていない場合は——一兆億個以上。

歯の周辺には驚くほど細菌が生息していて、肛門の周辺より多いとも云われます。だから寝る前の歯磨きは大変大切です。

### 二、唾液の役割

睡眠中に口を動かさないでいると、なぜ細菌が増殖するのか。唾液の分泌量が減少し唾液による自浄作用がなくなるからです。

私達は長く話をしたり緊張したりすると、口の中がパサパサとなり、初めて「唾液」の存在に気がつくものです。反対に食事をしたり、リラックスしている時には唾液が良く出ます。

唾液の量をコントロールしているのは自律神経（※）なので、自分の意志ではどうにもなりません。しかし口腔ケアを行う上で、唾液がよく出るか否かは重大な関心事なのです。

何しろ成人、一日に一、五リットルもの唾液を分泌するからです。

かつて唾液は、「唾棄する」といった言葉のように、汚いもの、つまりないものと考えがちでした。けれども最近は唾液腺の研究が進み、口腔環境として極めて重要な役割を果たしていることが解りました。

その主な働きをあげれば、

(一) 消化作用

(二) 歯、および粘膜の保護作用

(三) 水分の平衡（調節）作用

(四) 食物の溶解作用

(五) 水素イオンの濃度緩衝作用

等と、更に十以上の生理作用があげられています。

だから「歯がない」からといって、口腔ケアをしなくても良いと言うことにはなりません。

「舌」や「口腔粘膜」や「唾液腺のマッサージ」など、口の中のお手入れが必要です。

特に高齢者にとって口の中のお手入れ不足は、死因の大半を占める「誤嚥性肺炎」の原因ともなるからです。

また一般人にとっても、歯周病菌や他の病原菌が口から全身へと病を引き起こすことがあるからです。

(※) 自律神経 自分の思いに関係なく生まれながらに働いている神経





# ざっと世間を眺めれば

## 医の巨人、諸橋芳夫先生 国保旭中央病院創業者・全国自治体病院 協議会長・全国病院協会・勲一等

前号は「稲森さんについて」と書き出したが、日頃から敬慕してきた諸橋先生の記憶があまりにも強く、ついつい舌足らずの先生の紹介を付け加えてしまった。

ということ、今回は改めて諸橋先生との思い出を懐かしく辿ってみた。

かつて教育界もやがて二十一世紀を迎えるといった希望の中で、新たな取り組みが色々と論じられていた時代だった。県下の教職員の研修を司る教育センターの責任者として、何かヒントはどこ多忙の中、信頼厚い伊良部先生の紹介で何回か訪れさせて戴いた。

恰も旭中央病院が苦闘の結果、自治体病院として全国に盛名を馳始めた頃だった。

三十五、六年程前の当時は、国民健康保険が未だ周知されず、後発の国保病院だけでなく、国立、県立といわず一般病院もベッドが空気で病院経営の苦しい時代だった。

だがそんな中で旭中央病院は、既に満室で空きベッド待ちの状態だった。医師も又志望者が全国から次々と院長室を訪れていた。

そんな或日が先生とお会いした初日だった。

案内された応接室で五分ほど物珍しく見回していると、廊下からカツカツと力強い靴音と共に勢い良くドアを開け

られ、白衣で大柄で精悍さを漂わせた先生が入ってこられた。

慌てて立ち上がり挨拶しようとする。「解ってる解ってる座り給え」とにこやかに促され、早速用件をといった単刀直入な方だった。

「伊良部先生がなんと紹介してくれたか知らないが、うちの院長の話は八掛けで聞いて下さい」と笑いながら言われたが、既に話をする前にその風貌と気配に圧倒されていた。

そして開口一番、

「君もそうなんだろうが、人づくりこそが人間世界で一番大事なことなんだよな……何しろ世の中は人間がつくって動かしているんだから。で、その人間が粗末ではどうしようもないわな。はっはっは」

と、私の来意を超えて何か内に秘めた鬱積を吐き捨てるような強い口調で笑われた。

「でもな皆言葉では解っているんだ。だが目先の色々な欲に眩んで迷ったり忘れてしまおうんだ。だからこのことは揺るぎない信念を持たないと難しいんだぞ」

と、メガネ越しに穏やかであった視線が一際厳しく私を凝視した時の気迫が今も目に浮かぶ。

「だから僕は同郷だが全国の医師を束ねて擁護する武見君とは反りが合わないんだ。僕は良い医師を育てる。武見君は悪

い医者も守る。僕は病院こそ良い医者も育てる最もふさわしい所だといった思いで病院経営に全力投球しているのだからな」と再び何々大笑された。

そしてそんな話の中で、研修棟建設の苦労や、患者に対する総合診断やチーム治療法といったことを初めて教えられた。早速持ち帰った訪問のお土産だった。そしてついつい甘えて病院の盛況について尋ねてしまった。

「はっはっは。君もそう思うかね。あえて特別なことをしたとは思っていないよ。只、算術でなく広く仁術で考える医師だったら、当然だとすることをしていただけだよ」

「……」  
悪戯っぽい眼差しが私を探る様にして微笑まれ、そして一息ついて

「若し君が一番医師を必要とするとしたらどんな時だい？ たぶん急病だろう。夜中に医師が駆けつけてくれるかい。だから私は誰でも何時でも助けを求められる様に、他に先駆けて救急センターを設置した。昼夜もなく連日救急車が患者を運んできたよ。私の主義で医師は全員病院の近くに住んでいるとはいえ、担当医や当番医も大変だったろう。」

でも皆頑張ってくれたよ。そうすると急患の大多数は入院患者となり、通院患者となり患者がどんどん増え続ける。病院もそれにつれて二次三次と拡張を続けてきたわけだ」  
と淡々と話された。

そして終わりに先生は、懐かしんで止まない恩師柿沼先生の話から、生涯をかけた仕事の理解者協力者としての、厚生族の重鎮奥野代議士を始め同志鎌田先生

や県知事友納・沼田の両氏や、更には興業銀行や地元阿倍建設やらといった、今迄に至る幅広い人たちとの交流を折り目正しい言葉で率直に話された。

いつしか私は話の渦の中で、事をなす当事者の説得力(大義名分)と手腕(実現力)といったものを、しみじみと学ばされた。

それから三十有余年更に発展し、広大な駐車場と病院群を裾野として聳え立つ新装なった旭中央病院の偉容を前に、二百名を超える医師集団と千名に近い医療スタッフが、日々、二千五百名を超える患者の間を縫って往来をする様を観る時、そこに才知、情熱、信念、努力などといった言葉では到底語り尽くせない、今は亡き巨人、諸橋先生の姿を彷彿とさせるのである。

その言葉にけちをつけた女性小説家だったが、病院の玄関には、今もなお《全ては患者様のために》といった病院創設の理念が掲げられている。  
それが先生だったのだ。だからこそ旭中央病院なのだ。

(理事長 父)

千歯会便り 166号  
2014年12月20日発行



SENSHIKAI

発行元 千歯会  
医療法人社団  
編集 ウノ